

自分の思いや願いをもって、協働的に学ぶ児童の育成 ～「NHK for School 歴史にドキリ」とタブレット端末の活用を通して～

松山市立椿小学校

教諭 松本 真介

1 主題について

「NHK for School 歴史にドキリ」を話し合い活動の根拠となる情報源として視聴した。そして、深める活動では、テーマ別に分かれ、タブレット端末で番組を再視聴したり、動画クリップで関連情報を収集したりした。その後、全体で情報を共有するなど、動画視聴と協働的な学びとを結び付けた。

本実践は、社会科で学ぶ我が国の歴史的事象を歴史上の出来事にとどめるのではなく、事象を様々な視点で考察することで、歴史を学ぶ意義の理解や現代社会に対する関心を高め、主体的・対話的な深い学びにつなげることをねらいとしている。視点を決めて番組を視聴させたり、タブレットで関連情報を収集させたりすることで、話し合い活動の根拠を固められるようにした。それを基に、立場や考え方の異なる相手と協働して学ぶ状況を設定することで、学習効果の高まりを期待した。

2 研究内容

- (1) 対象 6年生児童 30名
- (2) 教科 社会科 単元「江戸時代と政治の安定」
- (3) 研究の視点
 - ① 自分の考えをもたせる工夫
 - ア NHK for School 視聴のための視点づくり
 - ② 協働的な学びの場の工夫
 - ア 学習形態の工夫
 - イ 話し合いの目的の明確化

社会科の学習に取り組むにあたり、「NHK for School 歴史にドキリ（全 42 回）」を継続して視聴させてきた。単元「江戸時代と政治の安定」では、立場や考え方の異なる相手と協働して学ぶ状況を設定した。番組は、単元の導入で視聴し、その後は、動画や教科書などの資料を根拠に自分の考えをもてるように授業を組み立てた。①幕府、②大名、③百姓・町人の3つの視点で自分の考えをまとめていった。

3 研究成果と今後の課題

(1) 成果

単元の導入で番組を視聴し、児童の興味・関心を引き出し、見通しをもって学習に取り組ませることができた。教科書や資料集、NHK for School の動画コンテンツを総合的に活用することで、江戸時代は「幕府により大名や多数の民衆が抑圧的に支配された時代」という一面的な見方から、「厳しいが栄えた時代」、「どの身分も頑張った時代」など多面的な見方をする児童が増えた。

また、3人グループで自分たちの考えを伝え合い、考えを収束させた活動を見ても、武士の立場からだけではなく、いろいろな身分の立場から時代背景を考えていることが分かった。

そして、立場や考え方の異なる友達と交流することにより、「自分だけでは気が付かないことを友達が教えてくれた」や「友達と一緒に深く考えることができた」、「友達と教え合うことが楽しかった」などと、協働的に学び合うよさに気付き、学習意欲に高まりが見られた。また、学習前後に「江戸時代はなぜ約300年も続いたのだろうか」という問いを児童に投げ掛け、自由記述させた内容を分析した結果、事実を比較したり関連付けたりしながら自分の考えを書いている児童の割合が、30%（学習前）から60%（学習後）と増加した。

話し合いに必要な資料や学習課題等を、タブレット端末で提示できるようにしたことで、児童は資料を拡大したり、何度も動画を見せたりして、効果的に自分の考えを相手に伝えることができた。NHK for School の動画コンテンツは「プレイリスト機能」を使用することで、提示までに掛かる無駄な時間を減らすことができた。必要な動画資料を、番組や『動画クリップセレクション100 小学校社会編』から教師がピックアップしてプレイリストを作成し、児童に使わせることで、スムーズに授業準備することができた。単元を通しての授業のルーティン化と、何をするか迷ったら学習課題を確認することを繰り返し指導したことで、児童は次に取り組むことが明確になり、進んで調べたり話し合ったりできた。

（2）課題

「NHK for School 歴史にドキリ」の特性として「人物目線で歴史を知る」ということが挙げられる。人物の人となりや業績等に児童の意識がフォーカスされ、一面的な見方や考え方になるのを防ぐために、教科書や資料集など複数の資料を総合的に活用する必要がある。